

# ～輝きの子育て～

## 子供の優しさ 心洗われ 礼儀作法一生の宝

いつまでも長引くコロナ禍の中で、行動範囲は狭められ、閉塞感におそわれる日々！  
何となく元気が出ない毎日を過ごしていましたが、先日の新聞で思いがけず、心洗われる  
清々しい事柄の原稿に触れ、明るい気持ちにさせられたものです。  
皆さまにも是非と思い、ここに掲載させていただきます。

「近頃、日本人のマナーが悪くなった」という話をきくことがある。しかし、米・ボストンに住む  
私は、帰国するたびに日本人のマナーの良さを再発見している。

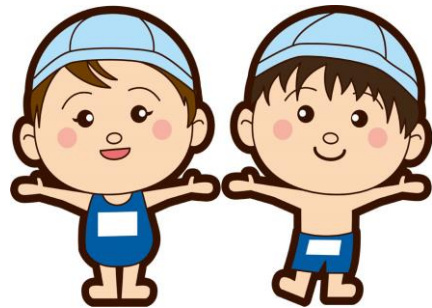
二年前に帰国し、昼過ぎにJRの電車に乗った時のことだ。車内は満席で、私の筋向いに5、6歳  
の女の子と母親が座って、楽しげに話していた。

次の停車駅で高齢の女性が入ってきたが、席が見つからないのでドアのそばにたたずんだ。その姿  
を見つけた女の子はそばに駆け寄って、にこやかに声をかけた。「席が空いていますからおいでくだ  
さい。」そのていねいな言葉と、かわいらしい声がわたしの耳まで届いた。

## 一期

桐谷逸夫の

## 一絵



女の子は彼女を自分の席に連れて行くと、「どうぞおかけください」と言って席を譲り、自分は  
母親の前に立った。やがて高齢の女性が礼を言って降りる時、女の子は再びにこやかに「お気をつけ  
て。ご縁がありましたらまたお目にかかりましょう」と声をかけた。

その言葉を聞いた乗客たちは顔をあげ、あるいは目を開けてにこやかにその女の子を見つめた。車  
内は一瞬にして和やかな雰囲気にも包まれ、見知らぬ乗客同士が声を掛け合っていた。

終始温かい眼差しで見守っていた母親の愛に包まれ、美しくしつけられた子供の自然な振る舞い  
は、まさに一生の宝だと思った。

東京を歩いていると、時々、心洗われる場面に出会う。見知らぬ私に挨拶してくれる子供もいれば、  
学校で習った歌を歌ってくれた子供たちもいた。日本の昔ながらの優しさとお作法が子供たちに受  
け継がれている姿を目にすると、むしろにうれしくなる。

2021年8月20日 読売新聞 朝刊より

私も正に同感です。

片野 英子